

1 児童の実態

前改善プランの定着目標の達成状況について、漢字の書き取りや知識技能を問う基礎的な問題などの基本的な学習は、5・6年算数を除き、目標値に達することができた。一方で、物語の場面の様子を捉えたり、条件にあわせての書き方を考えたりする力はチャレンジテストの結果からは、低学年ほど全道平均との差がみられた。授業改善を進めていく必要があり、児童自身が情報を整理したり、活用したり、まとめたりする場面を設定していく必要がある。算数では国語同様、単元末テストでは正答率が高い一方で、チャレンジテストの結果では2年以外は目標とする全道平均以上に達することはできなかった。

令和6年度全国学力・学習状況調査では、国語科・算数科ともに、全国の平均正答率を下回った。国語では「言葉の特徴や使い方に関する事項」、算数では「変化と関係」領域の正答率の低さが課題である。標準学力調査では、3年は国語科・算数科ともに全国平均正答率を大きく下回り、5年は算数科において全国平均正答率とほぼ同等であり、3年国語科、算数科の落ち込みが顕著となった。国語科では3年、5年いずれも「書くこと」領域、算数科では3年「図形」「測定」領域、5年「データの活用」領域の正答率の低さが課題である。

全国学力・学習状況調査の児童質問では、課題解決に向けた主体的な取組に対する肯定的回答が90%以上である一方で、友だちと話し合う活動については否定的回答が16%であった。友だちとの交流から多様な考えにふれ、考えを深めていこうとする場面を授業に意図的・計画的に位置付けていく必要がある。本校の授業づくりの重点の一つでもある「1人1台端末の利活用」については、「ほぼ毎日」の回答が全国値を大きく上回り、積極的に利活用していることが分かる。

また、本校実施の児童アンケートの結果、家庭学習時間『学年×10分+10分』を達成している児童は、低学年57%、中学年42%、高学年32%となり、学年が上がるほど目標（70%以上）を大きく下回った。

3年	- 条件に当てはめて書く。（年度末の確認テストにおいて正答率70%以上） - 既習の漢字の定着（学期末のまとめテストにおいて、正答率85%以上）
4年	- 条件に当てはめて書く。（年度末の確認テストにおいて正答率70%以上） - 既習の漢字の定着（学期末のまとめテストにおいて、正答率85%以上）
5年	- 条件に当てはめて書く。（年度末の確認テストにおいて正答率70%以上） - 既習の漢字の定着（学期末のまとめテストにおいて、正答率80%以上）
6年	- 条件に当てはめて書く。（年度末の確認テストにおいて正答率70%以上） - 既習の漢字の定着（学期末のまとめテストにおいて、正答率80%以上）

<算数科>

学年	定着目標
1年	- 繰り上がりのあるたし算、繰り下がりのあるひき算の計算ができる。（単元末のテストにおいて85%以上） - 誤答から正しい式を導きだすことができる。（年度末の確認テストにおいて正答率70%以上）
2年	- たし算やひき算の計算、かけ算九九ができる。（単元末のテストにおいて85%以上） - 筋道を立てて考え、言葉と式を使って説明する。（年度末の確認テストにおいて正答率70%以上）
3年	- かけ算の筆算ができる。（2・3位数×2位数）・わり算の計算ができる。（単元末のテストにおいて85%以上） - 筋道を立てて考え、言葉と式を使って説明する。（年度末の確認テストにおいて正答率70%以上）
4年	- わり算の筆算ができる。・小数のたし算・ひき算ができる。（単元末のテストにおいて80%以上） - 筋道を立てて考え、言葉と式を使って説明する。（年度末の確認テストにおいて正答率70%以上）
5年	- 小数のかけ算・わり算ができる。（単元末のテストにおいて80%以上） - 筋道を立てて考え、言葉と式を使って説明する。（年度末の確認テストにおいて正答率70%以上）
6年	- 分数のかけ算・わり算ができる。（単元末のテストにおいて80%以上） - 筋道を立てて考え、言葉と式を使って説明する。（年度末の確認テストにおいて正答率70%以上）

2 学年ごとの定着目標（数値目標）

<国語科>

学年	定着目標
1年	- 条件に当てはめて書く。（年度末の確認テストにおいて正答率70%以上） - 既習のひらがな・カタカナ・漢字の定着（学期末のまとめテストにおいて、正答率85%以上）
2年	- 条件に当てはめて書く。（年度末の確認テストにおいて正答率70%以上） - 既習の漢字の定着（学期末のまとめテストにおいて、正答率90%以上）

<学習・生活習慣（家庭学習等）>

学年	定着目標
1年	・児童アンケートの項目「家庭学習を全くしない」を0% ・普段(月～金)、午後9時までにTVの視聴やスマホ等の使用を止める(80%以上)
2年	・児童アンケートの項目「家庭学習を全くしない」を0% ・普段(月～金)、午後9時までにTVの視聴やスマホ等の使用を止める(80%以上)
3年	・児童アンケートの項目「家庭学習を全くしない」を0% ・普段(月～金)、午後9時までにTVの視聴やスマホ等の使用を止める(80%以上)
4年	・児童アンケートの項目「家庭学習を全くしない」を0% ・普段(月～金)、午後9時までにTVの視聴やスマホ等の使用を止める(80%以上)
5年	・児童アンケートの項目「家庭学習を全くしない」を0% ・普段(月～金)、午後9時までにTVの視聴やスマホ等の使用を止める(80%以上)
6年	・児童アンケートの項目「家庭学習を全くしない」を0% ・普段(月～金)、午後9時までにTVの視聴やスマホ等の使用を止める(80%以上)

3 目標を達成するための具体的な方策

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①授業に臨む姿勢や返事、発表の仕方などの学習規律について、小中一貫を軸に長橋中学校区内で統一した取組を促進する。
- ②個のニーズに合わせた学習環境の整備と支援を実施する。
- ③朝学習・朝読書の時間を設定し、落ち着いた学習活動のスタートを図る。
- ④算数専科加配教員や学習支援員等を活用し、専科指導、T・Tや習熟度別による指導など学習内容の定着や学習意欲の向上を図る。
- ⑤放課後学習会や長期休業中の学習会を設定し、基礎学力の定着と底上げを図る。

(2) 確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①全国学力学習状況調査や標準学力調査、チャレンジテスト等の各種客観データにより定着度を把握し、指導に生かすとともに課題が見られる問題を複数回取り組ませる。
- ②自分の考えをノートに「書く」活動を授業に位置付け、グループで話し合うなど交流活動を積極的に取り入れた授業を行う。
- ③小樽の授業づくり5つのSTEP!!!に基づく実践を積み重ねるとともに「自己決定の場」を必ず授業に位置付ける。
- ④授業や家庭学習の取組で、1人1台端末を積極的に活用する。

(3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①小中一貫を軸に長橋中学校区内で統一した家庭学習の取り組み方を具体的に提示し、学校と家庭が一体となった連動性のある学習習慣の基礎を築く。
- ②家庭学習の習慣化を図るため、家庭学習の点検や励ましを継続的に行うとともに、「家庭学習がんばり習慣」を設定し、意欲的な取り組みを図る。
- ③「早寝、早起き、朝ごはん運動」や「おたるスマート7」「アウトメディア」等を保護者へ啓発するとともに、「生活リズムチェック」で実態を把握し、改善に向けた方策を推進する。

4 実施計画

年月日	計 画 内 容
R 7年	
4月	・これまでの（前年度等）全国学力・学習状況調査の調査問題の実施 ・チャレンジテスト（前年度問題）の実施 ○R 7全国学力・学習状況調査の実施 ○全国学力・学習状況調査 自己採点・自己分析
	○標準学力調査実施（第3学年・第5学年） ・放課後学習会の実施（通年） ○標準学力調査結果分析
5月	・これまでの全国的な調査の課題が見られる調査問題の実施
6月	・「家庭学習がんばり習慣」の実施
7月	・チャレンジテスト（1学期末問題）の実施 ・端末を活用した児童アンケート（1回目）の実施
8月	・（夏季休業中）サポート教室の実施 ・チャレンジテスト（1学期サポート問題）の実施
9月	○R 7全国学力・学習状況調査結果分析 ・端末を活用した生活リズムチェック（1回目）の実施
10月	・「家庭学習がんばり習慣」の実施 ○保護者への調査結果の説明 ○学力向上改善プランの評価・改善
11月	・端末を活用した児童アンケート（2回目）の実施
12月	・これまでの全国的な調査の課題が見られる調査問題の実施 ・チャレンジテスト（2学期末問題）の実施 ・（冬季休業中）サポート教室の実施
R 8年	
1月	・端末を活用した生活リズムチェック（2回目）の実施
2月	・週末課題の取組（～3月） ・学力向上検討委員会「確認テスト」の実施
3月	・これまでの全国的な調査結果において課題が見られる調査問題の実施 ○新学力向上改善プランの作成

5 評価方法

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①～④自己評価や保護者・児童アンケートの実施と経年比較による分析と改善策の立案
- ⑤児童の参加率の統計データ収集と分析

(2) 確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①全国学力・学習状況調査、標準学力調査、チャレンジテスト、確認テストの結果における、全国・全道平均と本校の結果との経年比較等による課題と成果の検証
- ②～④自己評価や保護者・児童アンケートの実施と経年比較による分析と改善策の立案

(3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①～③自己評価や保護者・児童アンケートの実施と経年比較による分析と改善策の立案および保護者会や個人面談、学校運営協議会での説明と情報収集